

聖書宣教会通信

東京都羽村市羽西 2-9-3 Tel:042(554)1710 Fax:042(554)5562 www.bibleseminary.jp 振替 00150-6-34971

巻頭言 「目つきの点検」

川越聖書教会牧師 聖書宣教会理事 岸本 紘

「じっと見る」「見つめる」などと聖書に書かれているのは、いろいろな目つきの人がいるからでしょう。自由の律法を一心に見つめて離れない人もいれば、横目でじろっと見ているパリサイ人もいます。しかしイエスはだれに対しても、いつでもまっすぐな愛のまなざしを注がれます。「じっと見る」と言っても、それぞれの箇所で作られる語は違うようだし、文脈の違いということもあるでしょう。しかしこれらのみことばによって私たちはあらためて、目つきの再点検という、おそるべき作業を自らに課さなければなりません。

日本社会は大きな困難に直面し、大手企業までもが後退し、国全体が活力を失い、老いも若きも先行きに不安を感じています。戦後日本の宣教の勇士であった牧師や信徒たちが次第に御国に移され、次世代の我々もそろそろ引退という時期に、諸教会はさまざまな課題に行く手をはばまれています。人口移動、高齢化、少子化、不景気など、お決まりの諸要素が伝道不振に連動していると言いたくはないけれども、無関係と突っぱねることもできません。こうして高齢の教会員は残っているが、都会に出た子弟は必ずしも信仰を継承せずに、雑踏の中に姿を消してしまい、残った教会は後任の牧師が見つからない。しかも神学校は人数が減っている……。

このような困難に見まわれると、原因探しや犯人探しが始まります。「いったいだれのせいかな」。アダム以来の性質です。牧師の力量が問われたりもします。この世に楽な仕事はなく、牧師も例外ではありません。牧師は否応なしに、他人の重荷やねじれに巻き込まれることがあります。しかもこちらもねじ曲がっているのです。困難は倍増します。いろいろと批判されることがあります。(その上、忙しいときに別の用件が持ち込まれたりもします、原稿依頼とか)。信者は牧師の無力を嘆き、牧師は信者の不徹底を突

く。こうして交わりはぎくしゃくします。教勢不振の犯人探しです。お互いをじろっと見つめることになりかねません。

こんな時代に、どこ教会も神学校のことなんかは構ってられません。牧師たちも神学校にはつらかった思い出しかなく、しかも自分がふがないのは、神学校の頭でっかちの教育のせいだと、横目でじろっとにらんでいるかもしれない。そうかもしれません。そうでないかもしれません。

このたぐいの本音を自由に言うのが会衆制の教会ですか。いいえ。では、本音を押し殺して平静を装うのが教会ですか。いいえ。そもそもその二者択一が間違っています。どちらの場合も、漏れ出してくるのは肉の本音だからです。「肉は益なし」です。もしも私たちが「あがめもせず、感謝もしない」という、この肉の性質をキリストとともに葬り去り、教会の交わりの中で、牧師が、教会員が、それぞれのありもしない権利や正義感を振り回すのをやめて、恵みを感謝する人になろうとしっかり心に決めたならば、おそらくそれだけで教会は、そして家庭は、見違えるほど品の良いものになるでしょう。信仰は継承されるでしょう。それが宣教ではありませんか。そして新たな別の種類の熱心と情熱が生まれてくるでしょう。キリストの生ける臨在のせいです。キリストのもとに重荷を下ろそうではありませんか。ただキリストを喜びましょう。失望せず、しかし惰性に陥らず、ただ主を愛することを、今新たに私たちは学ぼうとしているのです。

横目でじろっと見るのはやめましょう。神学校のためにも祈りましょう。



キャラバン委員長 東海林 隆之

第2コリント4章5～7節から「イエスに仕え隊、イエスを伝え隊」というテーマを掲げた2012年度キャラバン伝道が、主の導きにより始まり、終わりました。派遣先教会の皆様、お祈りくださった皆様に心から感謝いたします。

罪赦されただけの土の器が集まり、無力さを痛感しつつも、自らを罪と死の只中から救ってくださった方に仕え、伝えたいという願いをただ握り締めていた、地味で泥臭いキャラバンでした。しかしそれは「この町には、わたしの民がたくさんいる」故に奮闘する諸教会に加えて頂き共に労し、我々を根底から支え、伝えるべき神のことは、器の中の宝の確かさと希望をもう一度握り直したキャラバンでした。

続く来年度のキャラバン伝道のためにも、お祈りとご支援をよろしく願います。

天白キリスト教会（愛知県）

日程：7月12日（木）～24日（火）

参加者：高田照一、東海林 隆之、森本浩平

長期の派遣となった天白キリスト教会チームは、子ども集会等特別な行事がありつつも、二度の礼拝、祈祷会、教会員宅への訪問や求道者との交わりといった「教会の日常」に携わらせて頂きました。

森下師や教会員の方々と一体となって地域のことを話し、祈り合う機会に恵まれました。また教会が所属する同盟福音基督教会について学ぶ機会や、他教会の牧会者や教会員との交わりも与えられました。

13日間に及ぶ働きを通して森下師の日常にも触れさせて頂き、牧会者の姿も学ばせて頂きました。何が最善か絶えず祈り、迷いながら、みことばを頼りに、一つ一つの取り組みに注意をし、振り返りつつ歩んで行く。まさに日常の中で主に仕え、主を伝えておられる牧師・教会の働きの一端に加えて頂き、厳粛な思いと感謝の中で奉仕しつつ、私たち自身の遣わされる先での歩みを思い巡らす機会ともなりました。(T)



白金キリスト教会（白金会堂・国分寺会堂）（香川県）

日程：7月17日（火）～7月23日（月）

参加者：輪田 豊、馬場義実、田中秀亮

私たちは香川県の一つの教会の二つの会堂で奉仕をさせて頂きました。伝道礼拝、子ども集会、トラクト配布等を教会員の皆様と共にさせて頂きました。印象的だったのは、ご家族の救いのために香川の地に住み続けることを選ばれたり、1枚のトラクトのためにマンションの最上階まで上って1軒1軒にポスティングされたり、厳しい暑さが続く中でも毎回トラクト配布をされたりと、教会員の方々の信仰をじかに見せて頂いたことでした。

今回のキャラバンでは「仕える」を全体テーマとして掲げましたが、このような「仕える」姿から、この地で「仕える」ことの一部を教えて頂きました。

四国遍路の県の一つである香川には、様々な場所に巡礼所があります。このような地域でみことばを説き明かす菅原先生の姿から、何をもって仕えていくのかを改めて教えて頂きました。私たちを受け入れてくださった教会の皆様、また、お祈りに覚えご支援くださった皆様に心から感謝致します。(T)



大月福音キリスト教会（山梨県）

日程：7月31日（火）～8月6日（月）
参加者：仲田志保、櫻井めぐみ、赤坂泉（教師）

私たちが遣わされた大月福音キリスト教会は、2012年のテーマを「家族伝道」としています。教会の皆さんの家族を前に熱いあかしを立てる姿や、またぐっと忍耐する姿から、ご家族への愛と願いが迫ってきました。

また、古くからの因習の強い大月の地で辛抱強く信仰を保ち、喜んで主を賛美してこられた教会の方たちの姿に学びました。「この二十年間、私たちにあって、神さまを礼拝したいということが他の何よりも大事だった」との言葉が、胸に響きます。

私たちは祈祷会、集会、チラシ配り、草取り、掃除、そして地域の方たちとの挨拶などを通して教会の一週間の歩みに加えて頂きました。創立二十周年記念特別伝道礼拝では新来会者が一名与えられ、主の御名を崇めました。

多くの方の祈り、また教会の皆さんの信仰による入念な備えと、横山先生の謙遜で忍耐強いご指導に、改めて感謝申し上げます。そしてかけがえない一週間をくださった主に、感謝いたします。
(N)

淡輪聖書教会（大阪府）

日程：8月3日（金）～13日（月）
参加者：齋藤 満、舛田友太郎、小幡 暎

「私たちは自分自身を宣べ伝えるのではなく、主なるキリスト・イエスを宣べ伝えます。私たち自身は、イエスのために、あなたがたに仕えるしもべなのです。」Ⅱコリント4章5節

私たちは8月3～13日まで、大阪府／淡輪聖書教会（大藪宣基牧師）で地域伝道に携わる奉仕と学びをさせて頂いた。

実際に地域伝道に関わる時、どのようにキリストを宣べ伝え、教会のしもべとして奉仕をするのか。まずみことばに向かった。準備期間中、週毎にメンバーが持ち回りで奨励をし、キャラバン中は毎晩の会合で大藪牧師よりみことばの養いを頂いた。みことばに養われ、みことばに立つ。その上で、祈りとみことばに支えられた堅実な教会形成の働きを垣間見させて頂いた。

また釜ヶ崎地区／西成めぐみ教会を訪問しての活動では、教会の社会的責任と、社会的な罪の存在を考える貴重な時となった。

終わってみれば終始みことばとともにあったキャラバンであった。(S)



近況と祈りの課題

- 夏期伝道実習のためにお祈りくださってありがとうございました。紙面の報告とあかしをご覧いただき、主への感謝と賛美をご一緒にいただければ幸いです。
- 研修生、教職員の秋の歩みのために。霊肉の整えをいただき、主にお仕えできるように。
- 9月になるとすぐに理事会、評議員会が行われます。宣教会の働きが教会のわざとして前進するように、整えと必要の満たしをお祈りください。
- 各地の神学校のために。（10月には、宣教会を会場にして福音主義神学校協議会が開かれます。）
- この国、この時代に、福音宣教のために献身する者たちが加えられるように。

夏期研修講座に参加して

小澤 和 男

奥多摩から帰ってきてからしばらく、「あの講座でおまえは何を手にしてきたのか」と自分自身に問いかけ続けていた。最初は、めざましいものはほとんどなかったかのように思えた。そのいっぽうで、小さな声が語りかけてくるような不思議な感覚がずっとあった。その声の源をたどっていくと、「アブラハムは試練の中で何度も召命を確認していった」（「主のしもべとしての牧会者」津村師）と解き明かされたあたりからしてくる。ただそれが私にとってどんなことなのかすぐには結びつかない。そんな日々がしばらく続いたのち、やっと思い至った。神は、私自身の召命をもう一度問い直しておられる。

ふり返れば、私は黙示録 3 章 2, 3 節によって献身に導かれた。そこには、「だから、あなたがどのような受け、また聞いたのかを思い出しなさい」とある。愚かな私は、目の前のことにとらわれているうちにこのことを忘れかけていた。あわれみに満ちた神は、今回の講座を通して目を覚ますようにと語ってくださった。

このようにして原点に戻された私は、次のみことばと対峙しなくなればならなかった。「わたしは、あなたの行いが、わたしの神の御前に全うされたとは見ていない。」実は献身に導かれたとき、このことが私にとってどのような意味なのかまったくわからなかった。いまでもわからない。でも、講座の中でエゼキエル書 34 章が開かれ、「わたしの羊」と語る神は、散らされた羊を取り返そうとされる」（「メシアに見る真の牧会」鞭木師）と語られたとき、強くこころを動かされる思いがした。私の召しはこのこととは無関係ではないのかもしれない。

「神の羊」をゆだねられている牧者としての自覚は、いつも自分のうちにあるのか。神の羊のために痛みを背負う用意はあるのか。改めて神に問いかけられている。

教会音楽夏期講習会に参加して

丸 毛 雄

私は、教会では聖歌隊の奉仕をしていますが、音楽の知識・技術は全くない者です。でも“より良い礼拝・賛美を献げたい、聖書を学びたい”という一心で今回の講習会に参加させていただきました。

各講義では賛美について色々な視点から聖書や教会史を学ぶことができました。特に「神殿礼拝」では、ダビデが組織化した神殿音楽隊が“預言的機能”を持って奉仕に従事していた事が印象に残りました。賛美は祈りや信仰告白だけではなく、人々に神様とそのみことばを宣教するものと改めて知り、私たちの賛美や聖歌隊の重大さを教えられました。

また分科会では「作曲入門」に参加しました。聖書の 1 節から曲を付けます。私は黙示録 4 章 11 節を選びました。曲作りの前に、まず黙示録 4 章の文脈をシッカリ押さえる。ここは私たちが想像できないような、天の礼拝。2 4 人の長老が冠を投げ出してひれ伏す、栄光の主が目の前に！その光景・意味をよく理解したうえで、まず 4 章 11 節の朗読。これはとても難しい！聖書を理解していないと朗読が出来ないことに気付きました。この「主よ」という呼びかけすら、自分はどこまで理解して朗読をしたり祈っていたのか…悔い改めさせられます。同時に、そこで賛美されている神様の偉大さに圧倒されました。曲は出来ませんでした。聖書朗読の重要さと神様の栄光を学べたのは恵みでした。

閉会礼拝では先生方と参加者、神学生のみなさんと「キリストはすべての人の」（1 テモテ 2 :6）による小カンタータで賛美を献げられました。主の偉大な救いを互いに歌い合う中で、何度も胸が熱くなりました。賛美を通して、みことばが新鮮に私の中に入ってきたと信じています。

この講習会で得た主の恵みを感謝しつつ、更に主とその教会に仕えることができますよう、自らを主に献げたいと思います。

「あなたのパンを水の上に投げよ」

森岡 泰子

2006年に教会音楽科を卒業し、愛知に戻ったのは良いものの、これから先はどうなるの？何かびっくりする事が起きるのかしら…と、未知なる世界への不安で私の心は一杯でした。同時に、「投げよ」と言われて出てきたからには、何かを投げなければ！との変な使命感を持っていたことを思い出します。幸い、教会での奉仕者、東海聖書神学塾教師、中部地区の諸教会が生み出した聖歌隊、名古屋エヴァンゲリウム・カントライの指導者などに招かれました。この聖歌隊は、創設以来変わることなく、みことばの音楽に取り組み続けています。

ところで、一体何をどう投げたらよいのか…。実は卒業時、私には密かな願いがありました。「いつか宣教会の様な講習会を、一日でも良いから愛知で開きたい！」。そして、昨年と今年の2年に亘り、宣教会の教会音楽の先生方4名をお招きして、一日（OneDay）講習会を行うことが叶いました。私自身への大きな励ましと喜びでした。地方においては、教会音楽の分野でも福音主義の講習会が開かれることは稀なこと。しかし、学びたい！との声は確かにある。一方、知らない人もまだ多い。続けて何かを投げさせて頂けたら、と思わされる昨今です。とにかく肩が回る間は…。



「オープンデイ」のお知らせ

11月10日（土）

オープンデイは、授業や礼拝にどなたでも出席いただける「公開授業」の日です。申込は不要です。見学などの機会として是非お用いください。皆様のおいでを心よりお待ちしております。

	I ~ II 8:20~10:00	10:05~ 10:35	III ~ IV 10:50~12:30	
1年	組織神学II(神論) (鞭木由行)	チャペル	説教理論 (赤坂 泉)	
2年	旧約研究I(五書) (津村俊夫)		旧約神学 (鞭木由行)	作曲II (石川由紀子)
3年	組織神学VII(終末論) (横山昌英)		組織神学VI(教会論) (宗形和平)	
4年	新約研究II(使徒の働き) (久利英二)		組織神学VI(教会論) (宗形和平)	

(上記内容については、当日変更となる場合もあります。)

「賛美礼拝」のお知らせ

12月1日（土）14:30

共に主の御名を賛美し、主を礼拝する時として、どなたもご参加いただけます。今年の賛美礼拝のテーマは「私を解き放ついのちの主」(ローマ人への手紙8章1~11節)です。ご多忙な中とは思いますが、ぜひお誘い合わせの上、お出かけください。

テーマ：私を解き放ついのちの主

曲目：

イエス、わが喜び (J.S.Bach BWV227 より)

全地よ、主に向かい、喜びの声をあげよ 詩篇100篇(岳藤豪希)

神よ。私にきよい心を造り 詩篇51篇10節~(H.Schütz SWV291)

イエス、わが喜び (J.S.Bach BWV713)

新作賛美 (石川由紀子) ほか

詳しくは、聖書宣教会のウェブサイト <http://www.bibleseminary.jp/> の「行事や予定など」-「行事のご案内」をご覧ください。

編集後記

今年の夏期調整期間がとりわけ短く感じられたのは多用のゆえか、加齢ゆえか、それともなぜだろうか。ともあれ、確実に豊かな主の守りの中で短い夏が終ろうとしている。研修生、教職員、それぞれに恵みを数

えつつ学舎に戻ってくる。大きな喜びもあり、厳しい闘いもある。最善をなして下さる主を信頼し、主に期待して、秋の歩みを進めてまいりたい。(A)